

2015年度第2四半期決算 会社説明会での主な質疑応答

- Q. 今年度末時点で伊方3号機の再稼働が確実になっている場合の、今年度の配当水準の考え方は。
- A. 今年度は、伊方3号機の再稼働時期が流動的であることなどから、先行きの業績を見通すことが困難であるため、中間配当を見送るとともに、期末配当については引き続き「未定」としている。
- 配当水準については、伊方3号機の再稼働状況だけではなく、業績水準等も勘案のうえ判断する必要があるものと認識している。いずれにしても、当社の株主還元の基本方針である「安定的な配当の実施」の実現を目指した事業経営を進めてまいりたい。
- Q. 伊方3号機再稼働後の料金値下げの可能性は。
- A. お客さまからの料金値下げに対するご期待が高いということは承知しているものの、伊方3号機の再稼働だけではなく、経営効率化に伴う費用構造の変化や、伊方発電所に係る安全対策費、これまで緊急避難的に繰り延べてきた修繕費などの費用水準、電力小売全面自由化による影響等も十分に見極めたうえで判断していく必要があると考えている。
- Q. 法的分離後の自己資本の向上に向けた考え方は。
- A. 会社経営に与えるインパクトとしては、法的分離よりもむしろ電力小売全面自由化の方が大きくなるものと認識している。自由化後の競争の進展状況次第ではあるが、現時点では、供給力の最大活用を通じた利益確保により内部留保の上積みを図り、段階的に自己資本の向上を目指していくことを基本に考えている。
- Q. 今後の経常利益の目標水準は。
- A. 震災前の利益水準を目指したいとの思いはあるが、今後の競争の進展に伴い収益性は低下することが予想される。そうしたなか、経営効率化によるコストダウンや域内外における販売拡大などを通じて、可能な限り震災前の水準を目指してまいりたいと考えている。

以 上